

函館ソーシャルクリニック

HUEレインボーはこだてプロジェクト

北海道教育大学函館校

准教授 古地 順一郎

HUEレインボーはこだてプロジェクト(以下、HUERHP)は、地域団体「レインボーはこだてプロジェクト」(以下、RHP)と協働し、LGBT(性的少数者)を知ることによって誰もが自分らしく暮らし、自己実現できるような函館・道南の地域づくりを行っている。LGBTについては、近年、メディアなどで取り上げられることが多く、以前に比べると認知度が高まりつつある。また、複数の調査によれば、人口の3-8%がLGBT当事者という結果も出ており、地域社会において一定数の当事者が存在すると考えられている。しかしながら、当事者が偏見や差別に苦しむことなく、自分らしく暮らし、自己実現できるような地域社会の実現にはまだ至っていない。とりわけ、地方都市や農村部においては、保守的な地域社会や支援を求めることのできるリソースが少ないこともあり、生きづらさを抱えている当事者は多い。

RHPは、元々地域プロジェクトとして2018年10月にスタートしたものである。その後、当事者、その家族・友人、「アライ」と呼ばれる支援者など、多様な背景をもった市民が多数参画する活動になったことから、2019年8月に地域団体化した。それに伴って、本校の地域プロジェクトはHUERHPに改称し、RHPとの協働関係を維持しながら活動を続けている。

HUERHPが協働する活動は、LGBTに関わる啓発イベント「虹をはいて歩こう」および「レインボーはこだてシアター」の実施である。「虹

をはいて歩こう」は、函館蔦屋書店のイベントスペースを利用して行うものでプロジェクト1期生(2018年10月—2019年7月)が発案したものである。LGBTに関わる地域課題を抽出する中で、LGBTを知る機会が函館・道南地域にないということ課題とし、公共空間における啓発イベントの実施を提案した。また、プロジェクトのシンボルを制作するにあたって、レインボー柄の靴下を提案した。公立はこだて未来大学のプロジェクト学習「デザインキャラバン」の協力を得て靴下を完成させた。この靴下は寄付金の返礼品となり、RHPの活動資金集めに大きく貢献している。2019年6月に開催された「虹をはいて歩こう2019」は、延べ300名を超える参加者を得た。

「レインボーはこだてシアター」は、上映会とトークセッションを通じてLGBTについて考える機会を提供するものである。2020年1月に第1回目を開催し、「愛と法」を上映後、「しゃべろう同性婚！」と題したトークセッションを行った。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響があり、オンラインと対面を併用しながら「虹をはいて歩こう2020」と「レインボーはこだてシアター」の準備を進めた。11月末に実施した「虹をはいて歩こう2020」については、イベント運営に主体的に関わると同時に、性の多様性について考える動画とレインボー靴下のPR動画を制作した。コロナ禍の中ではあった

が、延べ100名の参加者を得ることができた。「レインボーはこだてシアター」については、2021年2月に「ぼくが性別『ゼロ』にもどるとき」を上映した後、「“性別ゼロ”について考える」と題したトークセッションを実施した。

HUERHPの活動は、RHPメンバーの方々の献身的な支えなくして実施することはできない。日々学生をご指導いただき、その熱心な姿勢には本当に頭が下がる思いである。この場を借りて、改めて深く感謝申し上げます。

学生の声(地域政策グループ2年 高松友梨絵)

今年は開始時期が遅れたため、RHPの方々だけでなく、学生同士でも交流をするまでに時間がかかった。その中でも、本格的に活動するまでに出来ることを模索していった。

前期は文献講読や映画鑑賞、講演会を通じて、LGBTについての基本知識を学ぶことから始まった。オンラインでの「『ゲイの人』と焼きピロシキを作って食べる会」や、毎週のミーティングを通じ、RHPの方々と交流することができた。夏休みも活動を継続し、主に函館蔦屋書店で開催した「虹をはいて歩こう」のための話し合いを進めた。また、多様性や自分らしく生きることについてなど考え、意見交流を行った。後期もイベントの準備を進め、当日は前年より参加者が少なくなったが、多くの地域の方に性の多様性について知っていただく機会を提供することができた。

RHPの方々との協働はできたが、オンライン会議システムを利用した話し合いでは学生があまり発言できなかったことが多く、手法を工夫すべきであった。また、当事者の方との交流が少なくなるなど、例年と異なる状況で思うような活動ができなかった。その中でも活動を通

してそれぞれの価値観を見直すことができたため、今後もその視点を忘れないようにしたい。